

2016.02.01

「安全・安心・元気で・美しいまちづくりの提案」

～首都近郊の工業と住宅都市から多様性を持つ新しい「街」への歴史の変換へ向けて～

1 歴史的視点

- ★ 約75年前、厚木基地の開設（自立性の喪失と自信の持てない、成功体験の薄い町へ）→
- ★ 人口急増、自動車関企業等の進出（計画性・先見性の低さ、スプロール開発、住工混在、狭隘道路、交通ネットワークの低さ、義務教育等への投資）⇒
- ☆ インターチェンジの開設 ⇒ 自立性の高い、多機能、多様性を持つ街への転換を図る必要がある。
- ※ 従来の工業系土地利用では、既存企業も潤わない。研究開発型、環境系企業などを誘致する。また、観光、総合病院、防災公園などを誘致・設置する。

2 新しい街のコンセプト

- ◆ 第4・5・6次産業の展開、新産業の創造、ソフト志向、NPO等の進出（元気な街づくり）
- ◆ 市民の富の創造（健康的、安らぎ、文化性、安全性などの仕組みづくり）
- ◆ 新しいライフスタイル（働く場、楽しむ場、多様な消費財の供給、文化的資源の創造、街の美しさ）

3 新・創造空間への提案

(1) 主要な概念

◇エリア：インターチェンジ周辺を含む中心市街地（市役所周辺の空閑地を含む）

※「安全・安心・元気で・美しい都市」のコンセプト

- ◆「かん」 環境、観光、人・間・輪（ネットワーク）、平和（戦後の平和日本のスタート・マッカーサー
- ◆「のう」 農業、脳・能力（智）、芸能（文化）
- ◆「び」 病院（健康）、美しさ（瀬音、地下水）歴史性（マンモスの時代に定住地があった）

※ 人・物・情報の交流 → 賑わいの創造 → 市民力の向上を図ることができる。

(2) 活用する素材や

かわせみ、オオタカ、鮎、ヒメスバラ、古代の水（地下水）

(3) つなぐもの

「協働の力」・・・自治会、市民活動団体、趣味やボランティア団体、商工会、農協組織等

の

ネットワークが存在し、継続し、発展している。

4 取組み方法の提案

- (1) 賃貸型都市経営・・・自由性、可変性、共同土地利用型  
「タウンヒルズの底地共同経営方式」任意組合による官民協働型まちづくり
- (2) 官民協働のまちづくり・・・情報開示、市民意見の反映、進行状態のチェック  
現在の市政運営とは異なり計画段階から市民の意見を取り入れる。
- (3) 都市再生事業の取組み・・・国庫補助採択事業、国・県の支援、鉄道等の広域交通網の取組み  
国・県やまちづくり専門家等の支援を得て、計画策定から実施まで取組む

5 具体的な誘致施設等

- (1) 安全・安心・・・ 救急・総合病院の誘致、防災公園の設置、建設推進協議会提案（交通安全策、緑地、大型倉庫の規制等）の実現
- (2) 元気・・・ 研究開発型企业（環境系、農業系等）、大学等の誘致、商工会館の建設  
ホテル・コンベンション機能の誘致（消防庁舎跡地）  
鉄道等の広域交通網の取り組み（田園都市線の延伸）
- (3) 美しさ・・・ 平和ミュージアムの誘致、瀬音ミュージアム（音のある街）、観光施設（企業）の誘致、歩いて楽しい街、